

## 海の観光拠点整備事業基本計画（概要） 案

## 1 海の観光拠点の必要性

課題	期待	海の観光拠点整備によって得られる(見込)効果
豊かな自然環境や農林水産業の産業資源、文化財などの歴史的資産のさらなる活用	地域の資源やつながりを観光に活用	・海側観光の魅力創出による入込客数の増加 ・大山から海、海から大山へ相互送客による周遊性を高め滞在時間を延長
大山町のシンボルである大山を主軸とした広域連携による体験型観光の展開	体験型・交流型・滞在型観光が生まれやすい環境づくり	・海拔 0m から 1729m までのロケーションを生かした海側アクティビティに関するハブ機能 ・地域ニーズを踏まえることによる住民の交流や楽しむ機会の提供
観光を担う組織・人材の育成及び消費者に魅力を感じてもらえる商店づくりや多様化する消費ニーズへの対応	いつ行っても楽しいことがおこっている大山町の実現	・豊かな自然と四季折々のアクティビティを掛け合わせていつでも楽しい大山町の具現化 ・ガイドや商店等の担い手などの雇用創出 ・拠点整備による経済波及効果

## 2 海の観光拠点の整備方針

- ・御来屋漁港だけで全てのアクティビティを展開するのではなく、木料海岸や名和川河口周辺から御来屋漁港までを面的に捉えて、町民がスポーツをすることができたり、観光客はそれらを体験アクティビティとして楽しめたりするような仕組みづくりを行うなかで、周辺の取り組みとリンクする観光拠点であること。
- ・御来屋で取り組みがあるアートなど地域の特徴を生かしながら、観光だけでなく住民の方々の生活や安全にも配慮し、藻場の再生やブルーカーボンの利用など子供たちの未来のために海の自然資源を守り生かして持続可能な社会につなげる観光拠点であること。
- ・長い海岸線を持つ大山町の海側エリアの情報拠点であり、海側で面的に行われる海側のアクティビティによる海側観光と山側観光を結びつけ、当町の海と山の距離が近いという特徴を生かした町全体の活性化につながる観光拠点であること。

### 3 拠点の位置づけ

- ・山側と海側をつなぐ町内周遊観光と海側の滞在拠点型観光で地域活性化を図る。
- ・地域ニーズを踏まえて、住民交流を創出する。
- ・本施設の観光事業の新たな担い手や雇用を育む。
- ・利用者の増加が地域への経済波及効果を高める。
- ・御来屋の町の活性化を図る。

### 4 ターゲット

- ・おさかなセンターみくりやユーザーに新たな魅力を発信する。
- ・サイクリストの滞在を促し、山から海への魅力を発信する。
- ・インスタ映えするおしゃれな魅力で若い世代に発信する。

### 5 管理運営手法

- ・設計・施工・運営を一括とする DBO (Design-Build-Operate) 方式とし、公募型プロポーザルにより事業者選定を行う。
- ・運営は指定管理契約で、運用を想定している。
- ・施設全体の指定管理契約とし、個別部門は選定事業者が個別事業者とテナント契約を結び、運営することを想定している。

## 6 施設配置図

・配置イメージは別紙のとおり。

機能	必須	詳細
情報発信機能	★	情報発信スペース
アクティビティ対応機能	★	トイレ（男子・女子・多目的）
	★	シャワー・更衣室
	★	駐車場 38 台以上
	★	駐輪場
		その他必要な施設
滞在拠点機能	★	レストラン ※海を見ながら食事できるようにすること。
	★	イベント広場
		展望スペース
		管理事務所
		その他必要な施設
その他留意事項	★	お魚センター御来屋鮮魚市場の拡張を行うこと。（1 間程度）
	★	敷地内は漁港内で漁網の修繕スペースを確保すること。
	★	お魚センター海側にある倉庫は、同程度の機能が必要なため、既存アートの保護した状態での移設を基本とする。
	★	上記を踏まえ設計については、漁協との十分な協議を行うこと
	★	敷地内は、花火大会の打ち上げ箇所付近のため、耐火構造、又は準耐火構造にすること。

※★事項は必須整備事項として設計の提案を求める。

※必須でない施設については、整備方針・実現可能性を踏まえ必要な施設の設置をすること。

※漁港内であることから安全面を優先し、本施設内の海でのアクティビティ提供は行わない。

## 7 動線計画

- ・サーファーや、自転車利用者の滞在・消費を促し海側・山側の情報発信で町内周遊を促進する。
- ・おさかなセンター利用者は渡り廊下を設置し、新施設へ誘導する。